

学校教育目標 ◎かしこく ◎なかよく ◎たくましく ◎心ゆたかに



学力の向上

校長 佐藤 信孝

長い夏休みも終わり。本日より2学期が始まりました。2学期の開始を心待ちにしていた子、ちょっぴり不安があった子、登校するのがいやでたまらない子。様々なお子さんがいたことでしょう。それぞれのご家庭で、それぞれの子どもに応じて、背中を押していただいたことだと存じます。ありがとうございました。2学期も、「学びいっぱい、笑顔いっぱい、元気いっぱい、夢いっぱい 泰平っ子」の育成を目指して、職員一同励んでまいります。どうぞ、ご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

さて、夏休み中の7月31日に、文部科学省は今年度4月に本校の6年生も参加・実施した全国学力・学習状況調査の結果分析や質問調査の回答結果を公表しました。全国的に国語や算数の平均点や「勉強がよく分かる」への肯定的回答が、それぞれ2024年度に比べ、減少した結果でした。

また、文部科学省は同日31日に、2024年度に実施した学力の「経年変化分析結果（抽出）」の結果も公表しました。これは、全国的な学力の状況について、経年の変化を把握・分析し、今後の教育施策の検証・改善に役立てることを目標に平成25年、28年、令和3年度に続き令和6年度に4回目として、全国から1,200校が抽出され、実施されたものです。令和3年度の結果に比べて平均点が大幅に減少し、「小中の学力 大幅低下」等の報道（読売新聞8月1日付等）もされました。保護者回答からは、児童の学校外での勉強時間の減少、スマートフォンの使用時間の増加も結果として表れていました。同「経年変化分析調査・保護者に対する調査の結果（概要）」では「授業が「よく分かる」と回答している児童生徒の方が勉強時間が長く、テレビゲーム、SNS・動画等の時間が短い。ただし、授業がよく分かる場合も分からない場合も、家で保護者と勉強の話をする児童生徒の勉強時間が長い。」として、「子供たちの学習習慣は、家庭と学校が一緒になって形成していけるものと考え」としています。文部科学省やさいたま市教育委員会等の分析を踏まえながら、学校においては「授業がよく分かる」ことを一つの指針として、授業改善等に取り組んでまいります。

一方、家庭で子どもたちに「勉強」させることに悩んでいる方も多いかと思います。「勉強はなぜしなくてはいけないの」と私自身、学生だった頃も、教員として子どもたちや保護者と関わる際にも、常々考えてきました。私の今の考えは以下の通りです。

- 学ぶこと自体が楽しい。（好きなことはたくさん覚えられますよね、電車とかアニメのキャラクター、化粧品とか。）
- 学ぶことで、わかったこと、できたことが楽しい、うれしい。（達成感を味わい、「ぼくって、すごい!」と自己肯定感が高まる。）
- 覚えたことを使って様々な課題に取り組むことで、考える力や問題を解決する力が伸びる。（ああじゃないか、こうじゃないかと、試行錯誤しながら、自分なりの解決法を出すことができるようになる、これは、将来仕事や生活でも役立つ）
- 実生活に役立つ。（知らない文字が読めてたまらない、計算ができて買い物ができるなど）
- 世界を広げ、人生を豊かにする。（外国語が話せたら日本以外の人とも仲良くなれる、知らない世界や過去のことがわかる）
- 将来の選択肢が広がる。（勉強ができると高校や大学など、いける学校が増え、選択肢が増える。）
- 忍耐力がつく。（苦手なことにも取り組める・耐えられる、苦しい中にも楽しみを見つけられる）

「勉強は何のためにするのか」の問いの答えは一つではないでしょう。子どもたち自身も考え続け、その時その時に自分が納得いく、少なくともそれぞれの「勉強」に取り組める理由になればと思います。

＊

80日間の2学期が始まります。保護者の皆様、地域の皆様、1学期同様、様々な面でお世話になります。暑さもまだまだ続きますが、どうぞ、よろしくお願いいたします。